

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
 (仮称)ウェルティ安古市

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>2.8</b>	1.00			<b>2.7</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.5</b>	0.40			
1 開口部遮音性能	住戸のサッシはT-1を基本とする。	3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	コンクリート躯体として厚200に設定している。			4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	遮音性に優れた防音タイプのフローリングを採用している。			4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.9</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00			
1 室温設定		3.0	0.63	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.38	3.0	1.00			
4 ゾーン別制御性								
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00			<b>3.4</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>3.0</b>	0.43	<b>4.0</b>	0.50			
1 昼光率	居室に対して開口の大きいサッシを採用している。	-	-	5.0	0.50			
2 方位別開口					0.30			
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>		-	-	<b>3.0</b>	0.50			
1 グレア対策					-			
2 昼光制御		-	-	3.0	1.00			
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.21	-	-			
1 照度		3.0	1.00	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.36	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.6</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質	住戸内建築材料はほぼF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	4.0	1.00			
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能				3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.2</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00			<b>3.1</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>1.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性					-			
2 高度情報通信設備対応	住戸内LAN対応配管、光ケーブル対応としている。			4.0	1.00			
3 バリアフリー計画		1.0	1.00		-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>4.0</b>	0.40	<b>2.0</b>	0.40			
1 広さ感・景観				3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース					-			
3 内装計画	共用部は美観に努め、住戸内は利便性を高める。	4.0	1.00	1.0	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>								
1 維持管理に配慮した設計					-			
2 維持管理用機能の確保					-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.31		-			<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>2.9</b>	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級が等級2相当である。	4.0	0.23		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23		-			

2.4 信頼性			2.8	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20			
5	通信・情報設備	情報設備機能の多様化を図る。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			2.8	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					3.2	0.50	
1	階高のゆとり	天井を高くするため階高を2.91~3.01と設定している。			4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	1.00			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		2.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40			3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		設備関係は高効率なものを使用する。	4.0	0.40			4.0
4 効率的運用							-
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4
1.1	節水	設備機器は節水用、節水機能のものを使用する。	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00			
2	雑排水再利用システム導入の有無						
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.63			2.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68			
1	消火剤	使用目的なし、消火器のみ。	4.0	0.33			
2	断熱材		3.0	0.33			
3	冷媒		2.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		計画においてある程度の条件を満たす。	4.4	0.33			4.4
2 地域環境への配慮			2.0	0.33			2.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善		1.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3	交通負荷抑制	適切な駐車場、駐輪スペースと出入口の十分な接道幅の確保をする。	4.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
3.2	風害、日照阻害の抑制		3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3	光害の抑制		4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明は計画的に配置する。屋外広告はない。	5.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			